十返舎一九

（略）

喜多八　　　　おやどうした、抜けられねえか。

　　これ、手を引ぱてくり。

喜多八　　　　ははははは、こいつはかしい。

（が両手をぐと引ぱる。）

　　あいたたたたた。

喜多八　　　　弱え男だ。ちとしんうすればいい。

　　あとのうから足を引いてくれろ。

喜多八　　　　承知、承知。（後ろへ回り、両の足をとらる。）やあ、んさあ、

んさあ。

　　あいた、あいた。ああ、待てくれ、待てくれ。が折れるう

だ。こり、やぱり前のうから引き出してくれ。

－36－

（言ゆ、喜多八、前へ回り、両手をとらて引く。）

喜多八　　　　やあ、んさあ、んさあ。それ、またこちへよぽど出てきた。

　　こりたまらぬ、あいたたたたた。喜多八、これではいかぬ。初手の

うに、またあとへ引きしてくれ。

喜多八　　　　ええ、そんなに前へ回たり、後ろへ回たり、引き出しては引き

し、いつまでもはてしがねえ。こり、いい算段がある。（そばに見

てたりし、の人をみて、）もし、どうぞ、こちからおめえ、

引ぱてくださいませ。わしが回て、足を引きずり出しますから。

　　ばかあ言な。両方から引ぱては出るがねえ。

喜多八　　　　出るがなくても、両方から引ぱると、前に回たり、後ろへ回

たりする世話がなくていいわな。